



洋書輸入協会会報

Vol. 27 No. 9 (通巻316号) 1993年9月

JBIA セミナー 医学図書館の将来像

6月28日第2丸善ビル会議室で雑誌ニューメディア委員会の主催で慶応三田メディアセンター天野善雄氏によるこれからの医学図書館というテーマでセミナーが開催された。このセミナーは2月18日に東京大学付属図書館事務部長浅野次郎氏を講師として迎えて行なわれたセミナーに続くものである。JBIA メンバーにとって医学分野は最も関心度の高い領域であり50名を超えるメンバーが当セミナーに参加し盛況であった。

ハードウェア環境の進歩や情報部門再編化の動きは医学図書館に大きな変化をもたらそうとしている。図書館は情報基地となり、学内 LAN や WAN (Wide Area Network) を通じての在宅利用者に24時間体制でサービスすることも実現されようとしている。多様化する図書館利用者である医者、研究者のニーズを満たすため図書館はメディアセンターに変貌し、単に図書館の蔵書を中心とした利用サービスにとどまらず図書以外の資料や図表、データの管理運営を図書館以外の部門や他の医療機関や教育研究機関と協調して行ない、学内研究業績データベースの作成や診療支援システムの構築などに対応していくことが必要であるなどの発言があった。米国で実際に運用されている統合型学術情報管理システム (IAIMS: Integrated Academic Information Man-

agement System) の例もいくつか挙げられた。また学術ジャーナルにとって代わるものとして模索されている電子雑誌システムの展望も示され、執筆から編集・出版、購読者へのデリバリーまでの一連の作業が説明され、それぞれの過程での問題点も指摘された。このような近未来の図書館を支えるためには司書以外のバックグラウンドを持つ人材の確保も必要であることが強調されていた。

電子ジャーナルの出現は我々流通業者の介在を不要とすると考えられ、その実用化の時期についても質問が出された。我々図書館納入業者と図書館側の将来に対する展望がかなりズレていることを痛感すると共に、急速に変貌する医学図書館の将来に図書物流業務を主とする我々は一抔の不安を感じざるを得なかった。

今後このようなセミナーを通じ図書館運営に携わるメンバーと JBIA メンバーとの定期的な会合を通じて相互の利益になる道を探していく必要も天野氏から述べられた。最後に度々にわたり JBIA セミナーの会場を提供された丸善株式会社と同 JBIA 理事長代行である関根隼二様に当誌上を借りて厚く御礼申し上げます。

以上

ユサコ株式会社 CD-ROM グループ 増田 豊

JBIA セミナー	1	文化厚生委員会だより	3	東京の坂と橋と文明開化(38)	7
うちの会社	2	おしらせ	4	広 告	8
海外ニュース	2	洋書輸入協会史(81)	5		

イースタン ブック サービス(株)

洋書業界の皆様とともに歩むこと早や30年になります。種々な国際情勢の中で、助けられ、助けての歳月でした。改めて皆様に感謝する次第です。今までの幾多の著名出版社を代表した経験から、まず第一のモットーとしなくてはならない事は、「どうしても皆様に弊社の出版案内に興味をもってもらえるか」という事です。重要なタイトルはそれらしく案内し、そして忘れられがちなタイトルをも市場に出していく地道な宣伝活動が大切であると確信しています。弊社はそうい

った販売促進業務と卸売業務、ニューメディアの販売、そして Springer の Journals の広告代理業務等の活動をしています。本年10月から新しいコンピュータシステムを導入し、弊社の在庫や分類カタログ、大物シリーズのリストアップなどのより充実したサービスを提供させていただきたいと思います。なお姉妹会社 Springer-Verlag Tokyo とともにご愛顧いただきますようお願い申し上げます。

海外ニュース

米国で宗教書流行のきざし

今、米国ではキリスト教関係の出版物が一般書店の店頭でよく売れているという。これまで宗教書専門店で販売や教会関係者へのダイレクトメールによる販売に限られていたこの種の書籍の思いがけない流行は、一つには米国における最近の“ニュー・エイジ現象”の恩恵をこうむっているとみてよいだろう。

キリスト教系出版社がそれを認めるにしろ、認めたがらないにしろ、広く浸透しつつあるニュー・エイジの現象によりアメリカ人の宗教的なものへの関心が高められていることは確かである、とカトリック系出版社である Paulist Press や Trinity Press の経営陣はみている。

この現象に呼応して、幾つかの出版社はこれまでより幅広い層を対象とした例えばセルフ・ヘルプのジャンルのタイトルを刊行し、一般書店への市場拡大を図っている。

また、宗教的なシンボルを取り入れた旗章のデザインのための解説書といったクラフト関係の本や、修道院付属の宿泊施設ガイドといった新しいタイプの本も刊行され、Morehouse による後者のタイトルはニューヨークタイムズ紙上で、優れたペンションガイドとして好評を得た。Zondervan はノンフィクションのジャンルで野球選手やハリウッド関係者などの著書を刊行して成功している。

米国のキリスト教出版は特定の宗派に歴史的に結びついた伝統ある出版社と、特定宗派に属さない新教系の出版社とに大別されるが、福音主義キリスト教出版協会 (Evangelical Christian Publishers Association) は、カトリック系の出版をのぞいた宗教書の市場は年間7億5千万から10億ドルになると見積もっている。また、キリスト教書店協会 (Christian Booksellers Association) によると、キリスト教の書籍、贈答品、楽譜の小売市場は年間30億ドルとみなされる。

—BP Report '93年6月21日号および28日号より抜粋—

(紀伊国屋書店提供)

洋書輸入協会懇親ビアパーティ

バブル崩壊の景気と連動したかのように、うんざりするほどながく続いていた昨日までの雨が、嘘のように晴れ上がって絶好のビアパーティ日和である。会場は屋内だから直接の関係は無いとは言っても、やはり気分が違ふ。7月27日に初めての試みとして催されたビアパーティは、参加50社約180名（うち女性21名）の出席を得て、ホテルサンルート東京の大ホール「芙蓉の間」が、ほぼ満杯になる程で企画段階での予想を上回る大盛況であった。

発会の辞は、吉本文化厚生委員長による開催主旨の説明。従来からの新年懇親会や総会後のパーティの出席者が、毎回各社を代表する決まった顔ぶれに一定し勝ちで協会内に中堅層や若い人達の交流の場が無かったこと。ゴルフ、テニス、碁、マージャン、釣りなどの同好会は活動しているが、そのような縦割りのサークルでなく、肩の張る形式はすべて省いて、ただひたすら飲みかつ歓談するというパーティも楽しいのではないか—という発想から生まれたものである。

なるべく多数の人の参加を得たい、ということで会費

を¥3,000—に押さえたので、ビールのつまみはピーナツに柿の種程度か、と予想して参加された向きは、新年懇親会に匹敵する程のバラエティに富んだ料理の数に驚かれたのではないか。これは協会の予算から多額の補助を頂いたお陰である。いつもの会合より女性参加者のパーセンテージが多いこともあってか、閉会の手締めの後にもそこかしこでの歓談の輪はいつ果てるともなく続いていた程の盛り上がりぶりだった。

なにか新しい発想でユニークな活動を—ということ、新宿の紀伊国屋の重役会議室？での文化厚生委員会のメンバーの無い知恵を絞った成果だったが、その後席を変えて、アルコールが程よく回ってからのの方が良い案が活発に出て来たような気がしないでもない。次回は、各社の上司の方々の理解と協力を得てもっと多数の若い人達の参加が望ましい。こうした機会に、会社を横断して親しい触れ合いが始まったりするのも楽しい事だろう。

夏のビアパーティだけでなく、冬のおでんと日本酒の会なども面白いのでは—と、成功に気を良くして考えたりした。

A. A.



写真・会報委員会提供



第26回囲碁同好会

26回を迎えた囲碁同好会恒例の箱根囲碁会を7月10日～11日箱根湯本の「ますとみ旅館」で開催しました。小さな旅館ですがここの温泉は独自の泉源をもち「まmane湯」といって万病に効くようです。

今年は永年当同好会の会長をお願いしていた東光堂石内氏が亡くなられその追悼を兼ねた碁会となりました。参加者15名、1時に旅館に到着早速「まmane湯」で汗を流し3時より広間で夕食をはさんで優勝決定までの4局を戦いました。夕食のとき石内氏のご冥福を祈って黙禱を捧げ、食後再び烏鶯をたたかわせスイス方式による点

数制で順位を決めました。今年の成績は次の通りでした。

優勝	極東書店	内藤
2位	洋 販	長島
3位	洋 販	柴山
4位	教 文 館	倉持
5位	前事務局	柴田

入賞者には商品の他、日本棋院切っの俳人でもある石毛嘉久夫八段の肉筆の句が書かれた色紙と扇子が贈られました。

(洋販 武田記)

釣同好会

昨年秋の鰯釣り大会が中止になり、1年振りにキス釣り大会を7月3日(土)に開催しました。昨年までは江ノ島一茅ヶ崎周辺で行っていましたが、今年は都心より近い場所として川崎の「つり幸」より参加者20名を乗せて出船しましたが、あいにくの天候で前夜の雨は上がりましたが港を出ると風が強く東京湾波高し、木更津沖に到着するまで1時間の航程で船酔いする人が続出、釣りには最悪のコンディションでしたがそれでも3時の納竿まで頑張りましたが釣果はあがらず、釣狂の南江堂若松さんのみが目立ちました。

今秋の鰯釣りにはなんとか天気の良い日を選んで日時をきめたいとおもっております。

今回の成績は

1位	若松(南江堂)	31匹
2位	中村(大洋交易)	19匹
3位	広瀬(大洋交易)	17匹
大物賞	広瀬	26cm

以 上

(洋販 今井記)

お知らせ

次の通り移転通知がありましたのでお知らせします。

オービーケー(有限会社オビワン・ケヌビー)

新住所 千156 東京都世田谷区松原1丁目38番11号
ティーズビル3階

電話 03-5300-1618(代) (従来通りです。)

03-5300-1628(CRC Press)(従来通りです。)

03-5300-1658(OBK) (従来通りです。)

FAX 03-5300-1615 (従来通りです。)

営業開始 平成5年8月30日

会報の合本ができました

洋書輸入協会会報、通巻第201号(1984年1月)より300号(1992年5月)の合本ができました。9年間の協会の推移をつたえる資料として、ぜひ一本をお備えください。

合本第3号 クロス装 価格(送料込み) 5,000円
なお合本第2号(101号/1975年9月～200号/1983年12月)の残部も僅少ながらまだあります。ご希望の方には下記の通りの特価で提供します。

合本第2号 特価(送料込み) 2,500円

合本第2号+第3号 一括御購入の場合
特価(送料込み) 7,000円

(ご注文には、FAX 又は郵送で 事務所宛お送りください)

洋書輸入協会史 (81)

洋書輸入協会顧問 相良 廣 明

94 昭和37(1962)年度上期の輸入に関する発表と、従来との変更点及びライセンスの問題についての陳情

94.1 輸入に関する発表における従来との変更点と、AA範囲拡大の意義

昭和37('62)年4月5日付、JBIA No. 149で、年度初めの通産省発表を次のように会員に知らせている。

記

昭和37年度上期の輸入について

昭和37年度第一回公表並びに輸入発表があり、来る4月7日より実施されますのでお知らせ致します。

詳細掲載の通商弘報 No. 3790, 3791および3792号を同封致しますが、今年度より公表の方式が変り、輸入の非自由化品目(外貨割当制および自動割当制品目)のみ発表され、その他の品目はすべて自動承認制(AA)となります。「書籍および定期刊行物」については実質上変更はありませんが、通商弘報 No. 3790掲載の輸入注意事項の通り、ライセンスの記載方法が下記の通り変更されましたからご注意願います。

1. (略)

2. ライセンスは商品整理番号及び商品名欄に、別紙の番号と記号及び品名を、該当する一品目のみ記入して下さい。

一件のライセンスで二品目以上の申請は出来ないことになっておりますが、この点については手続き上困難な点がありますので、通産省当局と折衝の結果、早急に善処するとのことです。暫くの間はこの注意事項通り実施願います。(以下略)

以上の発表によれば、従来との変更点の第一は、従来は自由化品目が先ず発表となっていたが、それが非自由化品目のみが発表されることになったことである。これは発表品目以外はすべて自動承認制(AA制)になったことを意味している。「書籍及び定期刊行物」については、戦後民間貿易が再開されてから間もなくAA制となっているので、今回の発表は関係ないとはいえ、「書籍及び定期刊行物」がAA制となったことに驚喜した当時の我々を思い起こすと、時代が大きく変化していることに気付く。即ち、岩戸景気は昭和33年下期に始まり、昭和36年下期に終わるが、この景気によって外貨の蓄積

が出来、担保金の比率こそそのままに据えおかれたとはいえ、AA制は大幅に拡充され、輸入が大きく自由化されている。日本の経済成長の一つのメルクマールといえようか。

従来との変更点の第二はライセンスの扱いについてであり、これは事務手続き上非常に煩雑を伴うことになる変更である。理事会としては早速対策の検討に入り、直ちに行動を起こした。

94.2 ライセンスの件につき通産大臣宛陳情書の提出

協会理事会は、昭和37('62)年4月5日付で、次のような陳情書を提出した。

記

通商産業大臣

佐藤栄作殿

昭和37年4月5日

洋書輸入協会

理事長 司 忠

輸入注意事項 37 第10号「輸入公表の方法の変更に伴う輸入手続の改正について」に関する懇請書

標記輸入注意事項により輸入承認申請方法が変更され、同注意事項中「3. 自動承認品目に係る輸入承認申請件数(1)」によりすると、2以上の品目を1件の輸入申請書によって申請することは出来ないことになっておりますが、この点につきまして、当協会と致しましてその実施が困難な場合が考えられますので、御検討の上特別の御措置を御願い致したく懇請致します。

従来、「書籍及び定期刊行物」としては、下記品目が一括公表されておりました。

マイクロフィルムおよび書籍のさし画としてのフィルム(スライド)、語学学習用のレコード、書籍およびパンフレット(印刷したもの)、新聞、定期刊行物、楽譜、マイクロカード文献写真、書画(印刷したもの)、設計図、地図、海図および学術図、印刷物ならびに織物見本帳。

出版物の取引は、全世界数千の出版社がその取引の対象となっており、現在までその輸入承認の件数は、上記品目を一括して一件の輸入承認を受けても、なお膨大なものとなっております。

これに加えて、今回の変更に従い各品目別に申請致し

ますと、その件数は数倍加算され、業者と致しましてはその事務の煩雑化、諸経費の増大により、日常業務に少なからず支障を来すことは明らかでございます。

また更に2品目以上で不可分な関係になる商品もあり、例えばバックナンバー（雑誌の古いもの）などは、数年分まとめた雑誌の一揃いのものを単価として取引する場合が多く、その中の欠号の部分をマイクロカード、或いはマイクロフィルムにて補充してある場合もあり、語学学習用レコードにおいては、テキストの書籍にレコードが付属している場合、またさし画としてスライドが添付してある書籍などがございます。

一方、書籍と雑誌を同一の出版社が発行し、その輸入代金決済は一件の取立て手形などによりなされる場合が非常に多い現状で、これに対し輸入承認の分割申請を要することも、その煩雑化の一例でございます。

以上のような事情でございますので、何とぞ御賢察の上特別の御取計らいの程切に御願ひ申し上げます。

94.3 意外に早く陳情の趣旨が聞き届けられる

前期の陳情書を提出したところ、意外に早くその趣旨が理解され、協会側の希望通りに処理された。4月19日付、JBIA No. 150でその件を次のように会員に知らせている。

記

書籍及び定期刊行物の輸入承認について

JBIA No. 149でお知らせ致しました通り、ライセンスの申請方法について通産省と折衝して参りましたところ、このたび4月18日付にて輸入注意事項が発表され、ライセンスは2品目以上まとめて申請、取得出来ることになりました。（以下略）

察するところ、洋書業界以外の業界からも多数の苦情陳情が出たので、このように早く訂正が行われたものであろう。いずれにせよ早く決着したのは何よりのことであつた。

95 AIP と ACS 発行雑誌の未着・欠号の問題

95.1 AIP の未着・欠号

American Institute of Physics 発行の雑誌が、昭和37（'62）年度に入ってから混乱し始め、未着・欠号のクレームが多発し始めた。6月から7月にかけて3週間のアメリカ出張をした協会理事の山川氏（ユーエス・エシアティック社長）が、AIP を訪問、事情を調査し、帰国早々の7月10日の理事会に出席してその件の報告が

あつた。その事情は7月12日付のJBIA No. 154 で次のように会員に知らせている。

記

Anmerican Institute of physics の予約雑誌延着について

かねて AIP よりの購読者への雑誌送付が混乱しており、予約者各位にご迷惑をお掛けしておりましたが、これにつきましては丁度商用で渡米中の山川理事が帰られてその連絡によりますと、AIP において Remington-land System を採用したところ手違いが生じ、混乱したのが原因であることが判明しました。大体7月から8月にかけて調整され正常に戻る見込みで、この間の欠号は絶対に責任を持って送本することを確約しお詫びの意を表していた由。何とぞ御照会の向へはこの点を説明し、ご理解を得ようお願い致します。（以上）

山川理事がAIPを訪問した折は、その間にもあちこちからクレームの電話がかかってきていて、係員は対応に大重であつた由。しかしAIPの応対には誠意があり、訪問した6月15日現在で、1～2カ月のうちには完全に片付けるし、今年の1月に遡って欠号が一冊もないようにすると確約したとのこと。やはり權威のあるAIPだけのことはあると思われた。

なおこの事件の前後から、予約事務の機械化、特にコンピュータ化に際してあちこちの出版社で混乱が生ずるようになる。

95.2 ACS の船火事

American Chemical Society の Chemical Abstracts のNo.4が、船火事によって欠号となるという椿事が発生した。

山川理事は渡米してACSを訪問した折に、その欠号が埋められるかどうかを確かめたところ、これは間違いなく補充するとのこと。

なおACSではその折に、Member Price のものを取り上げ、確かにその人が必要とし、その代金を支払っているかということを調査するといっていた由。

別途の情報によればアメリカ全体に、Individual Subscription のものはAgentを通さないとする傾向が出てきているらしく、ACSの動向と併せ注目すべき現象と理解された。

（続く）

本郷界隈の坂〔9〕 菊坂と菊富士ホテル(6)

丸善・本の図書館 鈴木 陽 二

◆ エリセーエフの築いたアメリカの日本研究

アメリカの組織的日本研究は1930年代に入ってからであることを前回記したが、20世紀に入ると大学を中心にわずかながらその兆しが見えてくる。この初期の段階では日本の学者を招聘しての講座が主で、カリフォルニア大学では早くも1896年に日本講座を開設し、続いて1902年にスタンフォード大学、1909年にワシントン大学、さらにハワイ大学と、それぞれ日本文化や日本語の研究に着手する。イェール大学は1905年に朝河貫一（後年名誉教授となる）を日本研究の講師に任命、ハーバード大学では日本文明の講座を1913年に開設し、東京帝国大学の姉崎正治が招聘されて日本宗教学の講義を担当する。ちなみに聴講生としてT. S. Eliot が在籍していたということである。ハーバードにはまた、1928年にアルミニウム精錬法の発明者 Charles M. Hall の財産で燕京研究所 (Harvard-Yenching Institute) が設立されて東洋研究の重要なセンターとなる。コロンビア大学では東京専門学校（早稲田大学）を卒業してコロンビア大に留学した角田柳作の努力で1928年に日本文化センターが創設され、彼自身講師として教鞭を執ることになる。

さて、日本の満州および華北への進出で極東における政治情勢が緊迫化し、それに伴って日本研究の強化・充実が要請されてくるが、エリセーエフがハーバードに招聘されることになったのはそういう背景の中であつた。ソルボンヌの教授になったばかりの彼は、最初だいぶ躊躇したようであるが、結局収入が格段に違うということで受諾を決意する。ハーバードでエリセーエフは、主として日本語および日本文学を担当し、朝鮮総督府編『日本小学読本』、夏目漱石の『社会と自分』、『竹取物語』や山田博士の『日本文法講義』などをテキストに使用した。そして赴任した2年後の1934年には教授となり、新たに開設された東洋語学部部長となると同時に燕京研究所の所長に就任する。門下生となったエドウィン・ライシャワーには特に期待したようで現地教育のためにフランスや日本・朝鮮・中国に留学させ、帰国後は母校ハーバードの東洋学部の教師に任命する。

軍関係でも、アメリカ海軍が1922年に日本語専門官の

訓練を開始しているが、第2次世界大戦の危機が迫るにつれて拡張が図られて行く。戦時中、早くも戦後の対日政策に照準をあてた日本語研究が組織的に進められ、陸海軍ともプログラムを組んで徹底的な教育を推進するが、エリセーエフはこの計画の策定と実行にも関係する。日本が好きだった彼にとっては複雑な気持ちで参画したと思われるが、軍国主義に対する生来の反感が、日本を愛するだけに余計噴出したものであったろう。ともあれ、この戦時中の対日研究からルース・ベネディクトの『菊と刀』のような優れた成果が現れ、また日本語教育プログラムの中からは、サイデンスツーカーやドナルド・キーン、スカラピノなど新世代の多くの日本研究家が生まれ出て、戦後の日本研究を豊かなものにしていく。

戦時中、アメリカの日本研究が徹底的であったことは次のような例でも見ることができる。それは、日本語辞書の複製を大々的に行ったことで、たとえば1942年にはコロンビア大学が三省堂のコンサイス英語辞典を、ハーバード大学では上田万年の『大字典』、研究社の『英和大辞典』などが印刷された。ところが、日本でも似たようなことが行われた。昭和16年頃から洋書の輸入がほとんど途絶状態になってそれに困った情報局や軍部は戦争遂行に必要な理工系書籍の入手に八方手を尽くしたが、苦肉の策として昭和17年頃に「学術文献出版社」という国策出版社を洋書輸入業者が中心となって設立し、30点ほどの理工書を復刻した。今でいえば海賊版であるが、その中に『コンサイス・オックスフォード辞典』の復刻も行ったことが記録されている。もっとも、こちらの方は追い詰められた足掻きと見えるのだが……。

エリセーエフのハーバードにおける23年間の指導は、日本研究でアメリカを第一級の国にしたというだけでなく、彼が育てた弟子たちを通じて日本学が世界的な広がり高いレベルに達したことを、私たちは今日見ることができるのである。（参照文献は倉田保雄氏『エリセーエフの生涯』、国際交流基金編『米国における日本研究』など。なお6月号の印刷ミスを訂正します。「世界有数の東洋美術となる」→「東洋美術館」、「日本大使館を寄贈する」→「日本館」）

New Encyclopedias from Wiley

1994年刊行予定

無機化学百科事典

ENCYCLOPEDIA OF INORGANIC CHEMISTRY

Editor-in-Chief: R Bruce King University of Georgia USA

- 無機化学分野の最新の研究成果、発展を1巻ものとシリーズものの中間をゆく使いやすい全8巻で同時出版。
- 世界屈指の250人に及ぶ第一人者による寄稿。
- 構成 全6章 1. 物理的理論的手法 2. 主要族元素 3. 遷移金属 4. 有機金属化学 5. 固体化学 6. 無機生物化学
- アルファベット順による項目記載。
- 対象 専門分野以外の情報を必要とする産学の無機化学研究者。無機化学面の情報をえた い有機・物理・分析の各化学者、各専門に関連して無機化学の情報を求める材料科学者、ケミカルエンジニア、物理・生物・生化学・地球環境科学者。

1994年6月出版予定 全8巻

約6000ページ

ISBN 0471936200

出版前特価 (予価) \$1950

以降 (予価) \$2500

有機合成用試薬百科事典

ENCYCLOPEDIA OF REAGENTS FOR ORGANIC SYNTHESIS

Editor-in-Chief: Leo A Paquette The Ohio State University USA

1994年12月出版予定 全8巻

約6000ページ

ISBN 0471936235

出版前特価 (予価) \$1950

以降 (予価) \$2500



WILEY

ご注文は洋書取扱店に、

ご質問は ジョン ワイリー アンド サンズ リミテッド 東京事務所

〒141 東京都品川区上大崎2-24-11-403 TEL 03-3495-0525 FAX 03-3495-0596

1993年9月 通巻第316号 洋書輸入協会

編集者 神田 俊二

〒103 東京都中央区日本橋1-21-4 千代田会館5階20号室

☎(03) 3271-6901 FAX. (03) 3271-6920

印刷所一藤本綜合印刷株式会社